

令和8年度 古河薬剤師会通常総会

第1号議案 令和7年度事業報告について

第2号議案 令和7年度収支決算について

第3号議案 役員・委員改訂について

第4号議案 令和8年度事業計画について

第5号議案 令和8年度収支予算について

第6号議案 細則改訂について

令和8年5月16日(土)19:00～
会場 Cafe & Bar アップス

第1号議案

令和7年度事業報告について(案)

【会員状況】

(令和8年4月21日現在)

会員数	96	名	
年間入会者数	4	名	
年間退会者数		5	名
物故会員者数		0	名

(年間入会者・退会者数は令和7年5月30日～令和8年5月15日迄)

【表彰】

茨城県薬剤師会 会長賞:高橋真吾(薬局ファミリー)

【委員会活動】

古河薬剤師会関連

研修委員会

＜研修運営＞

担当者

高橋真吾(薬局ファミリー)、加藤大貴(あおぞら薬局)、大野浩(アイン薬局古河諸川店)、緒方直美(クラフト株式会社)、後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)、岡田英之(スマレ薬局)

令和7年度は目標であった薬局加算に関する研修会であるBCP関連、感染症関連、サイバーセキュリティー関連の研修会や地域連携に関わる研修会を開催できた。

＜学術大会への参加＞

発表者

岡田英之(スマレ薬局)

第58回日本薬剤師会学術大会において、「地域住民に対するアンチ・ドーピングおよびスポーツファーマシストの認知度調査」の発表を行った。

発表者

岡田英之(スマレ薬局)

第36回茨城県薬剤師会学術大会において、「地域住民に対するアンチ・ドーピングおよびスポーツファーマシストの認知度調査」の発表を行った。

発表者

森安大(なのはな薬局)

第36回茨城県薬剤師会学術大会において、「地域における採用薬情報共有システムの導入～古河薬剤師会の取り組み～」の発表を行った。

地域連携事業委員会

地域共生社会や地域包括ケアシステムの構築に向けて、薬局や薬剤師に求められるものは多岐にわたっており、また、地域の課題に対して単独の薬局または限られた薬剤師で解決することは容易ではない。

地域課題にフォーカスし、他の職種や団体と連携しながら地域の薬局全体で行動していくという観点が求められている。

その視点に立って、前年度に引き続き、関連事業を進めた。

＜古河モデル事業＞

担当者

宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)

7月9日(水)ケアマネ会との合同研修会を実施。8月9日を新気づきシートを活用した連携事業を実施した。

シドニー大学藤田先生ご指導のもと古河モデルの論文を作成し9月に日本在宅医療連合学会に投稿。2月に査読結果が届き、3月11日、修正の上、再投稿。

＜入退院時連携事業＞

担当者

宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)

古河赤十字病院との定期的なミーティングを継続中。薬剤科の体制の問題もあり進捗無し。

他病院との検討も進めることができなかった。

＜オレンジカフェ推進事業＞

担当者

後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)

認知症の早期発見・早期治療につなげるための活動は、自治体ごとに認知症初期集中支援チームが立ち上がり活動している。しかし、その活動は必要とする人に結びついていない。地域では高齢化が進み認知症に対する不安を抱えた当事者やその家族が暮らしている。そのような方の声に耳を傾ける場所が地域で求められており、薬局はそのような不安を受け止める場所として適当であり、地域包括支援センター、認知症家族の会、介護支援専門員協会古河地区会と連携しながら今年度はオレンジカフェ(認知症カフェ)の開催ができる店舗を増やしていく。

＜アンチドーピング担当事業＞

担当者

岡田英之(スマレ薬局)

スポーツフェスタ古河2024で得られたデータを論文化し、コミュニケーション学会の学会誌に掲載。その内容は第58回日本薬剤師会学術大会および第36回茨城県薬剤師会学術大会にてポスター発表。11月3日に開催されたスポーツフェスタ古河2025でのブース設置およびアンチ・ドーピング啓発活動を実施。

＜特定健診受診推進事業＞

担当者

椋山徳幸(オレンジ薬局)

昨年度に引き続き茨城県の事業(かかりつけ医及び地域の薬局と連携した保健事業)として特定健診受診勧奨事業を行った。昨年度に引き続き古河市と五霞町の薬局が対象。今までは声掛け後の受診確認まで行っていたが、今回は声掛けのみの事業となった。事業に参加した薬局は38薬局(昨年度は34薬局)であった。この事業へ参加した古河市の薬局は古河市の事業(国保重複多剤服用者健康相談事業)へも参加した。

<他団体との交流事業>

担当者 宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)
7月17日(木)歯科医師会主催による三師会を山水にて開催。薬剤師会会員10名を含む33名が参加。交流を深めると共に継続開催を確認。

<夜間休日輪番体制整事業>

担当者 加藤大貴(あおぞら薬局)、後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)、岡田英之(スマレ薬局)、森安大(なのはな薬局)、緒方直美(クラフト株式会社)、高橋真吾(薬局ファミリー)、宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)
地域の休日夜間における医療資源提供体制を構築するための活動を行う。
2月の申込み状況を反映して年次更新予定。令和7年度の輪番参加薬局は26薬局。

法人格検討委員会

担当者 会長
行政や企業などとの連携を考えれば法人格の取得は有用であることも考慮し、引き続き古河薬剤師会の法人化を検討する。

災害対策委員会

担当者 五十畑孝治(イソハタ薬局本町店)、高橋真吾(薬局ファミリー)、山野光一(かりん薬局)
今年度は目標であった五霞町との災害時協定について前進したが、協定締結までには至らなかった。
BCP研修会を開催し、各自治体の災害担当者も参加。自治体を巻き込んだ形で研修会を開催できたのは大きな前進。
公式オープンチャットを災害時の情報共有ツールとして実装中。今年度もオープンチャットを使用し、地域の情報共有ツールとして活用できた。

【担当委員活動】

会員連絡担当委員

担当者 金沢知志(アイン薬局古河本町店)
会員への研修会のお知らせ、その他薬剤師会の会員へのお知らせが主な業務。

ホームページ担当委員

担当者 森安大(なのはな薬局)、小泉和之(あおぞら薬局)
掲載作業の効率化のため、研修委員へ研修アップ時の掲載フォーマットを通知。
Google reCAPTCHAの有料化に伴い、各サイトのフォーム等の認証をCLOUD FLAREへ変更。
薬剤師会役員・委員会、薬局リストを最新版に更新。
地域支援体制加算・連携強化加算の算定要件にある輪番・災害時対応薬局のリストを更新。
医薬品情報共有サイト「Pharma View Koga」のスタートアップ。(8月より)

長期連休開局状況確認と情報共有委員

担当者 高橋真吾(薬局ファミリー)
Google foamを活用しアンケート調査にてゴールデンウィークと年末年始の開局状況を各薬局に確認。薬剤師会で把握し、会員間の情報共有を行った。

県薬剤師会関連

防災担当委員

担当者 五十畑孝治(イソハタ薬局本町店)
災害に備えた防災対応を、災害対策委員会において検討する。

ベストライフ事業担当委員

担当者 後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)
茨城県薬剤師会と連携して随時対応し担当を振り分けする。

「薬と健康の週間」事業担当委員

担当者 初澤博文(ハロー薬局)
「薬と健康の週間」は今年度も10月の関東ド・まんなか祭りと共に開催した。地域活動としては、市民の方々にお薬手帳や在宅などのアンケートをお願いすることで薬剤師職能の啓蒙活動を行った。更に「薬と健康についての相談・医薬品適性使用の啓発・禁煙指導・「ダメ。ゼッタイ。」普及活動も行った。
さらに

医療保険委員会担当委員

担当者 加藤大貴(あおぞら薬局)
今年度は6月5日に1回、新規個別指導に立ち合い予定。
前年度同様、保険薬局の個別指導の立ち合い及び、他の地域の医療保健委員の先生方が立ち合いを行った報告書を元に、研修会の場を活用し、2月5日に保険調剤に係る情報伝達講習会を実施

実務実習生受け入れ担当委員

担当者 縦山徳幸(オレンジ薬局)
令和7年度の実習生の受け入れは4名。受け入れ薬局はアイランド薬局境町店(Ⅰ期1名、Ⅱ期1名、Ⅲ期1名)、オレンジ薬局諸川店(Ⅱ期1名)。
昨年度に引き続き、県西在宅クリニックの往診同行実習、あおぞら薬局の在宅実習を行った。成果報告会は筑西薬剤師会・常総薬剤師会・古河地域の病院と合同で開催。4期は実習生は病院だけだが、古河赤十字病院の実習生1名の成果報告会を行った。

学校薬剤師部会

部会長 落合佑介(落合薬局)
古河市担当委員 落合佑介(落合薬局)
猿島郡担当委員 森安大(なのはな薬局)
学校薬剤師の推薦を行う。
幼稚園、保育園、認定子供園の要望により薬剤師の紹介も行うが、基本的には学校薬剤師の研修を修了した会員を紹介する。報酬についてもある程度薬剤師会で交渉する。

古河薬剤師会 研修会 実施実績

実施年月日	会場	内容
2025/07/09	古河市総和福祉センター「健康の駅」視聴覚室	古河薬剤師会・茨城県介護支援専門員協会古河地区会合同研修会
2025/09/24	ユースセンターKI防水	入退院から外来までを支える薬業連携～マニュアル作成と現在地～
2025/09/29	友愛記念病院 2階 ゆうあいホール	消化器がん連携セミナー～薬業連携セミナー～
2025/10/29	zoom	地域におけるアンチ・ドーピング
2025/12/09	zoom	生成AIを活用した地域防災～BCP作成やアクションリストのアプローチ例～
2026/02/05	zoom	感染対策の基本と実践～地域における感染対策を考える
2026/02/18	ユースセンターKI防水	実現しよう 糖尿病治療連携
2026/03/31	zoom	サイバーセキュリティ研修会
2026/04/07	zoom	9価HPVワクチンシルガード9の情報提供

入退院時連携 ミーティング 実施実績

実施年月日	時間	参加者
2025/06/19	16:00-17:00	宇田和夫、加藤大貴@古河日赤
2025/09/25	16:00-17:00	宇田和夫、加藤大貴@古河日赤
2025/12/18	16:00-17:00	宇田和夫、加藤大貴@古河日赤
2026/03/19	16:00-17:00	宇田和夫、加藤大貴@古河日赤

ベストライフ事業 実施実績

開催年月日	講師	研修会名	会場	受講者人数
2025年6月18日	綾織恵美(アイン薬局総和店)	令和7年度 健康講座「教えて、薬剤師さん！」 薬と生活習慣病の関係について	古河市総和福祉センター「健康の駅」	45
2025年6月14日	川島与輝(あおぞら薬局)	高齢者のくすりの使い方	古河市下山1丁目会議所	25
2025年11月14日	古谷百恵(ウエルシア薬局古河鴻巣店)	お薬講座(薬の飲み方 高血圧について)	大山集会所	20
2025年11月24日	後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)	お薬講座	茶屋町会議所	15
2025年12月21日	財部 仁誌(スミレ薬局est)	お薬講座	古河市中田公民館	35
2025年10月16日	野中琢哉(アイン薬局古河駒羽根店)	いきいきシニアのさわやか教室におけるお薬教室	野本電設工業コスモスプラザ	30
2025年10月17日	後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)	いきいきシニアのさわやか教室におけるお薬教室	スペースU古河	30
2025年11月26日	高橋真吾(薬局ファミーユ)	いきいきシニアのさわやか教室におけるお薬教室	ユースセンターKI防水	30

令和7年度 収支決算
令和7年4月1日～令和8年3月31日

令和7年4月1日～令和8年3月31日

(単位:円)

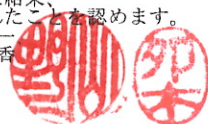
収入の部			
科目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	3,319,740	3,319,740	
会費等収入	1,330,000	1,248,578	
薬剤師会会費 A	1,010,000	960,000	A会員(13000円)×66人 B会員(3000円)×34人
活動交付金 B	170,000	108,578	地域・職域薬剤師会助成金(基本額50,000円+会員数100名×700円)
その他収入 C	150,000	180,000	ホームページ掲載料(6件)
事業収入Ⅰ 研修委員会	50,000	30,000	
研修会等参加費 D	50,000	0	
懇親会費収入 E	0	0	
その他収入 F	0	30,000	システム利用料(1回30000円)
事業収入Ⅱ 地域連携事業委員会	50,000	0	
研修会等参加費 G	50,000	0	
懇親会費収入 H	0	0	
その他収入 I	0	0	
事業収入Ⅲ その他事業	100,000	97,400	
交付金 J	60,000	60,000	薬と健康の週間事業(ド・マンナカ祭り、第3回ふくしまつり):60,000円
その他収入 K	40,000	37,400	薬剤師資格証(会員4名、会員外15名)
その他の収入	2,000	5,659	
利息 L	2,000	5,659	常陽銀行利息
寄付 M	0	0	
収入合計	4,851,740	4,701,377	

支出の部			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
委員会活動費	774,000	541,791	
研修委員会	127,000	102,550	
会議時等運営費 ①	5,000	0	会議場費、備品など
研修会運営費 ①	100,000	77,020	会場費、講師謝礼及び交通費、備品
懇親会費 ①	20,000	25,530	
その他 ①	2,000	0	
地域連携事業委員会	644,000	439,241	
古河モデル事業	82,000	7,748	
運営費 ②	10,000	4,448	会議場費、備品など
研修会運営費 ②	30,000	3,300	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ②	20,000	0	
学術大会参加費 ②	20,000	0	
その他 ②	2,000	0	
入院時連携事業	29,000	0	
運営費 ③	5,000	0	会議場費、備品など
研修会運営費 ③	20,000	0	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ③	2,000	0	
その他 ③	2,000	0	
オレンジカフェ推進事業	12,000	12,000	
運営費 ④	3,000	0	会議場費、備品など
研修会運営費 ④	5,000	0	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ④	2,000	12,000	
その他 ④	2,000	0	
アンダーボーディング担当事業	227,000	202,132	
運営費 ⑤	120,000	122,524	会議場費、備品、スポーツフェスタ等イベント費など
研修会運営費 ⑤	3,000	3,300	会場費、備品など
懇親会費 ⑤	2,000	0	
学術大会参加費 ⑤	100,000	76,308	学術大会発表者(日本薬剤師会学術大会、茨城県薬剤師会学術大会)
その他 ⑤	2,000	0	
特定後援受診推進事業	208,000	59,950	
会議時等運営費 ⑥	3,000	0	会議場費、備品など
研修会運営費 ⑥	3,000	0	会場費、備品など
学術大会参加費 ⑥	0	0	
懇親会費 ⑥	2,000	0	
その他 ⑥	200,000	59,950	
他団体との交流事業	7,000	55,000	
会議時等運営費 ⑦	3,000	0	会議場費、備品など
研修会運営費 ⑦	1,000	0	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ⑦	2,000	55,000	三師会等
その他 ⑦	1,000	0	
夜間休日輪番体制整備事業	79,000	102,411	
運営費 ⑧	75,000	102,411	夜間搬送システム費、印刷代、文書郵送費等
研修会運営費 ⑧	1,000	0	会議場費、備品など
懇親会費 ⑧	2,000	0	
その他 ⑧	1,000	0	
災害対策委員会	3,000	0	
防災活動費	2,000	0	
その他 ⑨	1,000	0	
県薬剤師会関連	122,000	122,916	
「薬と健康の週間」事業活動費	60,000	89,116	薬と健康の週間事業(ド・マンナカ祭り、第3回ふくしまつり)
医療保健委員会活動費	2,000	0	資料印刷代
実務実習受入委員会活動費	60,000	33,800	
運営業務等支出	3,955,740	607,175	
役員活動費	290,000	208,400	会長1名・副会長2名・会幹1名・理事8名・監事2名 計14名
会員活動費	10,000	0	委員の理事会参加日当など
福利厚生費	5,000	0	
庶務費	20,000	0	
総会時費用	220,000	149,600	総会・案内ハガキ
会議費	90,000	66,300	役員会、理事会
交際費	100,000	0	
事務用品費	20,000	0	名刺代など
印刷費	10,000	0	
通信費	100,000	66,021	
ホームページ管理費	3,000	0	サーバー費など
支払手数料	3,000	21,065	振込手数料 常陽銀行システム利用料
活動予備費	3,084,740	95,789	学術大会発表者(茨城県薬剤師会学術大会)、のぼり・前巻れ
支出合計	4,851,740	1,271,882	

事業活動収支差額			
科目	予算額	決算額	摘要
収入合計	4,851,740	4,701,377	
支出合計	4,851,740	1,271,882	
収支差額	0	3,429,495	

以上の通り報告いたします。 令和8年5月16日
会長代理 岡田 英之
会計 加藤 大貴

〈監査報告〉
古河薬剤師会 令和7年度収支決算について監査した結果、
会務及び財務に関する事務の執行は、適正に処理されたことを認めます。
令和8年5月16日
山野 光一
如木 優香



令和8年度 古河薬剤師会役員等一覧(案)

役員	会長		岡田 英之	スマレ薬局
	副会長		宇田 和夫	下総プリンスクラブ
			加藤 大貴	あおぞら薬局
	会計		後藤 沙矢香	アイン薬局古河駅西店
	理事		鮎川 金弥	丘里薬局
			五十畑 孝治	イソハタ薬局本町店
			初澤 博文	ハロー薬局
			縦山 徳幸	オレンジ薬局
			森 安大	なのはな薬局
			高橋 真吾	薬局ファミリー
			田村 美帆	共創未来総和薬局
			落合 佑介	落合薬局
	監事		山野 光一	かりん薬局
卯木 優香			卯木薬局	

委員会	研修委員会		高橋 真吾	薬局ファミリー	
			川島 与輝	あおぞら薬局	
			財部 仁誌	スマレ薬局EST	
	地域連携事業委員会		宇田 和夫	下総プリンスクラブ	
			縦山 徳幸	オレンジ薬局	
			岡田 英之	スマレ薬局	
			加藤 大貴	あおぞら薬局	
			後藤 沙矢香	アイン薬局古河駅西店	
	県薬剤師会関連	防災担当者 古河地区		五十畑 孝治	イソハタ薬局本町店
		防災担当者 境地区		高橋 真吾	薬局ファミリー
防災担当者 五霞地区		山野 光一	かりん薬局		

	Webサイト委員		森 安大	なのはな薬局	
			小泉 和之	あおぞら薬局友愛前	
	長期連休閉局状況確認と情報共有委員		高橋 真吾	薬局ファミリー	
	薬学生実務実習受入担当委員(地域薬担当)		縦山 徳幸	オレンジ薬局	
	イベント委員	ドマンナカ祭り		初澤 博文	ハロー薬局
		福祉祭り		小泉 和之	あおぞら薬局友愛前
		スポーツフェスタ		平川 智也	協和調剤薬局西南前支店
	県薬剤師会関連	ベストライフ事業担当委員		後藤 沙矢香	アイン薬局古河駅西店
		薬と健康の週間事業担当委員		初澤 博文	ハロー薬局
		医療保険委員		加藤 大貴	あおぞら薬局
薬学生実務実習受入対策委員		縦山 徳幸	オレンジ薬局		

学校薬剤師部会	部会長		落合 佑介	落合薬局
	古河市担当		落合 佑介	落合薬局
	猿島郡担当		森 安大	なのはな薬局

茨城県薬剤師会代議員			柳本 忠昭	猿島厚生病院
			五十畑 孝治	イソハタ薬局本町店
			縦山 徳幸	オレンジ薬局
			下地 益功	境ゆう薬局
			柿沼 直利	ウエルシア薬局茨城境町店
			大野 浩	オレンジ薬局

令和8年度 古河薬剤師会推薦者一覧

市町村委員	古河市国民健康保険運営協議会委員	縦山 徳幸	オレンジ薬局
	古河市介護認定審査委員	加藤 大貴	あおぞら薬局
		大堀 久雄	ホワイト薬局
		落合 佑介	落合薬局
		縦山 徳幸	オレンジ薬局
	古河市健康づくり推進協議会委員	宇田 和夫	下総プリンスクラブ
	在宅医療・介護連携推進協議会委員	加藤 大貴	あおぞら薬局
	古河市学校保健会理事	初澤 博文	ハロー薬局
		落合 佑介	落合薬局
古河市地域ケア会議委員	宇田 和夫	下総プリンスクラブ	
茨城県古河保健所	古河・坂東保健医療圏地域・職域連携推進協議会	五十畑 孝治	イソハタ薬局本町店
	古河・坂東保険医療福祉協議会	岡田 英之	スマレ薬局
	古河・坂東保健医療圏地域医療構想調整会議	岡田 英之	スマレ薬局
薬物乱用防止指導員		谷川 慎吾	協和調剤薬局友愛前支局
		野中 琢哉	アイン薬局駒羽根店
		落合 佑介	落合薬局

第4号議案

令和8年度事業計画について(案)

【委員会活動】

古河薬剤師会関連

研修委員会

＜研修運営＞

担当者 高橋真吾(薬局ファミリー)、川島与輝(あおぞら薬局)、財部仁誌(スマレ薬局EST)、大野浩(オレンジ薬局諸川店)、緒方直美(クラフト株式会社)、後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)
令和7年度はリアル集合研修4回とZoomによるオンライン研修4回の計8回開催。内容は薬局の加算に係る内容や地域医師を講師に招いての研修など地域としての研修の意義がある内容で開催。活動内容を別紙の通り報告する。

＜学術大会への参加＞

発表者 岡田英之(スマレ薬局)
第59回日本薬剤師会学術大会においてスポーツフェスタ古河2025で実施したアンケート調査結果を発表する
発表者 森安大(なのはな薬局)
第59回日本薬剤師会学術大会において「地域における採用薬情報共有システムの導入～古河薬剤師会の取り組み～」の発表を行う。

地域連携事業委員会

地域共生社会や地域包括ケアシステムの構築に向けて、薬局や薬剤師に求められるものは多岐にわたっており、また、地域の課題に対して単独の薬局または限られた薬剤師で解決することは容易ではない。地域課題にフォーカスし、他の職種や団体と連携しながら地域の薬局全体で行動していくという観点が求められている。その視点に立って、前年度に引き続き、関連事業を進めた。

＜古河モデル事業＞

担当者 宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)
6月から7月にケアマネ会と合同研修会を開催。その後、ケアマネ会で7月、8月を強化月間として新気づきシートを活用したスクリーニングを実施。(今後、定例化を図る)

＜入退院時連携事業＞

担当者 加藤大貴(あおぞら薬局)
古河赤十字病院との定期的なミーティングを実施。
友愛記念病院など他病院との入退院時連携事業の再開を目指す。

＜オレンジカフェ推進事業＞

担当者 後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)、川島与輝(あおぞら薬局)、小泉和之(あおぞら薬局友愛前)
認知症の早期発見・早期治療につなげるための活動は、自治体ごとに認知症初期集中支援チームが立ち上がり活動している。しかし、その活動は必要する人に結びついていない。地域では高齢化が進み認知症に対する不安を抱えた当事者やその家族が暮らしている。そのような方の声に耳を傾ける場所が地域で求められており、薬局はそのような不安を受け止める場所として適当であり、地域包括支援センター、認知症家族の会、介護支援専門員協会古河地区会と連携しながら今年度はオレンジカフェ(認知症カフェ)の開催し、活動できる店舗を増やしていく。
また、古河市高齢介護課と共催で、地域における支援体制であるチームオレンジとともに、認知症当事者の講演会と映画の上映会を開催することで、認知症に対する正しい理解を地域住民に広める活動を進める。

＜アンチドーピング担当事業＞

担当者 岡田英之(スマレ薬局)
スポーツフェスタ古河2025においてアンケートを実施し、その内容は古河赤十字病院の倫理審査委員会を通してため、得られたデータを元に2026年の日本薬剤師会学術大会にて発表する予定。また、昨年度は古河シティFCに対するアンチドーピングの講義を実施できなかったため、今年度は実施できるように検討する。スポーツフェスタ古河以外のイベントでの啓発活動なども検討する。「薬剤師×運動指導」のプロジェクトを新しく始める。まずは今年度はトライアルで実施し、次年度以降に横展開できる様に進めていく。

＜特定健診受診推進事業＞

担当者 縦山徳幸(オレンジ薬局)
今年度も引き続き県の事業として行われるのかは未定。事業継続の場合はかかりつけ薬剤師の地域活動になることを周知し、参加を促していく。

＜他団体との交流事業＞

担当者 宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)
地域共生社会、地域包括ケアシステム構築に貢献を目的に、7月に薬剤師会主催で三師会を開催予定。テーマは地域フォーミュラーとする予定。

＜夜間休日輪番体制整理事業＞

担当者 財部仁誌(スマレ薬局EST)、加藤大貴(あおぞら薬局)、後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)、岡田英之(スマレ薬局)、森安大(なのはな薬局)、緒方直美(クラフト株式会社)、高橋真吾(薬局ファミリー)、宇田和夫(社会福祉法人下総プリンスクラブ)

大きなトラブルはないため、昨年と同様に輪番体制を継続する。

法人格検討委員会

担当者 会長
行政や企業などとの連携を考えれば法人格の取得は有用であることも考慮し、引き続き古河薬剤師会の法人化を検討する。

災害対策委員会

担当者 五十畑孝治(イソハタ薬局本町店)、高橋真吾(薬局ファミリー)、山野光一(かりん薬局)

主な活動は地域BCPを作成するためのミーティングや水八寿裕先生を講師に迎えた研修会を開催。今年度の研修会には各行政の防災担当者が参加、それぞれの地域の取り組みを紹介し、防災を軸にした地域との繋がりが進んだ。
災害時の情報共有ツールとして使用を想定した「古河薬剤師会公式オープンチャット」を運用継続中。

【担当委員活動】

Webサイト委員

担当者 森安大(なのはな薬局)、小泉和之(あおぞら薬局友愛前)
薬剤師会役員・委員会、薬局リストを最新版に更新予定。
地域支援体制加算・連携強化加算の算定要件にある輪番・災害時対応薬局のリストを作りUP予定。
医薬品情報共有サイト「Pharma View Koga」のVer.UP。併せて会員薬局へ登録を促す。
医薬品情報共有サイトについて日本薬剤師会学術大会にてポスター発表の予定。
薬剤師会Webサイトにて、地域薬局が使える便利ツール(計算ツールなど)を公開予定。
薬剤師会Webサイトから情報を発信し、健康予防についての啓蒙活動を行っていく。

長期連休開局状況確認と情報共有委員

担当者 高橋真吾(薬局ファミリー)
Googlefoamを活用しアンケート調査にてゴールデンウィークと年末年始の開局状況を各薬局に確認。薬剤師会で把握し、会員間の情報共有を行う。
古河薬剤師会ホームページを活用し、基幹病院門前薬局での輪番体制掲載しているため、その更新も継続していく。

イベント委員

担当者 初澤博文(ハロー薬局)、小泉和之(あおぞら薬局友愛前)、平川智也(協和調剤薬局西南前支局)
昨年に引き続き、ドマンナカ祭り・福祉祭り・スポーツフェスタ古河でのブース出展を行い、薬に関する啓蒙活動を継続する。

県薬剤師会関連

防災担当委員

担当者 五十畑孝治(イソハタ薬局本町店)
災害に備えた防災対応を、災害対策委員会において検討する。

ベストライフ事業担当委員

担当者 後藤沙矢香(アイン薬局古河駅西店)
茨城県薬剤師会、古河市高齢介護課と連携して随時対応し担当を振り分けする。

「薬と健康の週間」事業担当委員

担当者 初澤博文(ハロー薬局)
「薬と健康の週間」は今年度も10月の関東ド・まんなか祭りと共に開催する予定である。地域活動としては、市民の方々にお薬手帳や在宅などのアンケートをお願いすることで薬剤師職能の啓蒙行い、更に薬剤師会の啓蒙活動を行う予定です。

医療保険委員会担当委員

担当者 加藤大貴(あおぞら薬局)
今年度は12月10日に1回、新規個別指導に立ち合い予定。
前年度同様、保険薬局の個別指導の立ち合い及び、他の地域の医療保健委員の先生方が立ち合いを行った報告書を元に、研修会の場を活用し、調剤報酬に関する情報の発信を行う。

実務実習生受け入れ担当委員

担当者 縦山徳幸(オレンジ薬局)
今年度は古河地域の薬局での実習生受入はなし。筑西薬剤師会・常総薬剤師会・古河地域の病院で受入があれば成果報告会の開催に協力する。茨城県での認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップは9月に予定。

学校薬剤師部会

部会長 落合佑介(落合薬局)
古河市担当委員 落合佑介(落合薬局)
猿島郡担当委員 森安大(なのはな薬局)
学校薬剤師の推薦を行う。
幼稚園、保育園、認定子供園の要望により薬剤師の紹介も行うが、基本的には学校薬剤師の研修を修了した会員を紹介する。報酬についてもある程度薬剤師会で交渉する。

令和8年4月1日～令和9年3月31日

3319740

(単位:円)

収入の部			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
前年度繰越金	3,319,740	3,429,495	
会費等収入	1,248,578	1,260,000	
薬剤師会費 A	960,000	960,000	A会員(13000円)×66人 B会員(3000)×34人
活動交付金 B	108,578	120,000	地域・職域薬剤師会助成金(基本額50,000円+会員数100名×700円)
その他収入 C	180,000	180,000	ホームページ掲載料(6件)
事業収入Ⅰ 研修委員会	30,000	135,000	
研修会等参加費 D	0	75,000	
懇親会費収入 E	0	0	
その他収入 F	30,000	60,000	システム利用料(1回30000円)
事業収入Ⅱ 地域連携事業委員会	0	85,000	
研修会等参加費 G	0	55,000	
懇親会費収入 H	0	0	
その他収入 I	0	30,000	システム利用料(1回30000円)
事業収入Ⅲ その他事業	97,400	100,000	
交付金 J	60,000	60,000	薬と健康の週間事業(ド・マンナカ祭り、第3回ふくしまつり):60,000円
その他収入 K	37,400	40,000	薬剤師資格証など
その他の収入	5,659	6,000	
利息 L	5,659	6,000	
寄付 M	0	0	
収入合計	4,701,377	5,015,495	

支出の部			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
委員会活動費	541,791	731,000	
研修委員会	102,550	126,000	
会議時等運営費 ①	0	5,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ①	77,020	100,000	会場費、講師謝礼及び交通費、備品
懇親会費 ①	25,530	20,000	
その他 ①	0	1,000	
地域連携事業委員会	439,241	595,000	
古河モデル事業	7,748	66,000	
運営費 ②	4,448	10,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ②	3,300	30,000	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ②	0	20,000	
学術大会参加費 ②	0	5,000	
その他 ②	0	1,000	
入退院時連携事業	0	29,000	
運営費 ③	0	5,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ③	0	20,000	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ③	0	3,000	
その他 ③	0	1,000	
オレンジカフェ推進事業	12,000	60,000	
運営費 ④	0	43,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ④	0	5,000	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ④	12,000	10,000	
その他 ④	0	2,000	
アンチドーピング担当事業	202,132	210,000	
運営費 ⑤	122,524	123,000	会議場費、備品、スポーツフェスタ等イベント費など
研修会運営費 ⑤	3,300	3,000	会場費、備品など
懇親会費 ⑤	0	3,000	
学術大会参加費 ⑤	76,308	80,000	学術大会発表者+随行者1名 日本薬剤師会学術大会
その他 ⑤	0	1,000	
特定検診受診推進事業	59,950	10,000	
会議時等運営費 ⑥	0	3,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ⑥	0	3,000	会場費、備品など
学術大会参加費 ⑥	0	0	
懇親会費 ⑥	0	3,000	
その他 ⑥	59,950	1,000	
他団体との交流事業	55,000	100,000	
会議時等運営費 ⑦	0	10,000	会議場費、備品など
研修会運営費 ⑦	0	10,000	会場費、講師謝礼及び交通費、備品など
懇親会費 ⑦	55,000	70,000	三師会等
その他 ⑦	0	10,000	
夜間休日輪番体制整備事業	102,411	120,000	
運営費 ⑧	102,411	115,000	夜間転送システム費、印刷代、文書郵送費等
研修会運営費 ⑧	0	2,000	会議場費、備品など
懇親会費 ⑧	0	2,000	
その他 ⑧	0	1,000	
災害対策委員会	0	10,000	
防災活動費	0	9,000	
その他 ⑨	0	1,000	
県薬剤師会関連	122,916	102,000	
「薬と健康の週間」事業活動費	89,116	60,000	薬と健康の週間事業(ド・マンナカ祭り、第3回ふくしまつり)
医療保健委員会活動費	0	2,000	資料印刷代
実務実習受入委員会活動費	33,800	40,000	
運営業務等支出	607,175	4,182,495	
役員活動費	208,400	270,000	会長1名・副会長2名・会計1名・理事8名・監事2名 計14名
会員活動費	0	20,000	委員の理事会参加日当など
福利厚生費	0	5,000	
慶弔費	0	20,000	
總會時費用	149,600	160,000	總會・案内ハガキ
会議費	66,300	50,000	役員会、理事会
交際費	0	20,000	
事務用品費	0	10,000	名刺代など
印刷費	0	5,000	
通信費	66,021	70,000	
ホームページ管理費	0	100,000	サーバー費、学術大会参加費など
支払手数料	21,065	23,000	振込手数料 常陽銀行システム利用料
活動予備費	95,789	3,429,495	
支出合計	1,271,882	5,015,495	

事業活動収支差額			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
収入合計	4,701,377	5,015,495	
支出合計	1,271,882	5,015,495	
収支差額	3,429,495	0	

古河薬剤師会 細則

(会費)

第1条 本会の年間の会費および店舗賦課金は次の通りである。
正会員3,000円とし、管理者は店舗賦課金として10,000円とする。

(役員活動費)※総会承認事項

第2条 役員は、会務に関わる年間活動費として以下の額を受け取ることができる。

会 長 80,000円
副会長 20,000円
会 計 30,000円
理 事 10,000円
監 事 10,000円

(委員会・担当委員)

第3条 本会に、その目的達成の為に以下の委員会および担当委員を置く

委員会

- 1) 研修委員会
- 2) 地域連携事業委員会
- 3) 防災委員会
- 4) その他

担当委員

- 1) Webサイト委員
- 2) 長期連休開局状況確認と情報共有委員
- 3) 薬学生実務実習受入担当委員(地域薬担当)
- 4) イベント委員
- 5) ベストライフ事業担当委員
- 6) 薬と健康の週間事業担当委員
- 7) 医療保健委員
- 8) 薬学生実務実習受入対策委員
- 9) その他

(部会)

第4条 本会に、その目的達成の為に学校薬剤師部会を置く

(日当)

第5条 会務に関わる活動に日当を支払うことができる。

- 1) 日当は、半日2,000円とする。(移動時間を含む)
- 2) 別途主催者側等から支払われる場合は支給しない。
- 3) 委員会等の活動による日当は、原則、支給しない。ただし、一人当たり概ね1,000円程度の弁当・茶菓子代は認める。
- 4) 委員(三役および理事を除く)が理事会に参加した場合は日当1,000円とする。
- 5) 日当の支払いは会員に限る。
- 6) 日当の支払いの可否は正副会長、会計で検討し、理事会に報告する。
- 7) 学術大会等での発表については、発表当日の1日分を支給する。

(活動旅費)

第6条 旅費の種類は、交通費及び宿泊料として次の通り定める

- 1) 交通費は、公共交通機関の普通運賃を支給する。乗車区間が概ね片道50km以上の場合は特急料金(指定席の有る場合普通車指定席、航空機の場合はエコノミークラス)を上限に、実費を支給する。連続する交通手段を使用し片道5,000円を超える区間を利用する場合は、原則、領収書を添付することとする。
- 2) 交通費については、各自、出来る限り割引料金等の活用を図る。
- 3) 宿泊料は15,000円を上限とし、上限を超えた場合には、超えた額は自己負担とする。宿泊料は、領収書等と引き換えに精算する。
- 4) 自家用車を使用する場合は、1kmあたり20円の燃料費を支給する。概ね片道40kmを超える場合は有料道路の使用を可とし、原則利用明細等を確認の上、実費額を支給する。
- 5) いずれの場合も、他から支払われる場合は認めない。

(学術大会等)

第7条 学術大会等参加時の費用について、次の通り定める。

- 1) 本会活動に関連した発表を行う場合に限り、発表者および共同演者の学会等参加費、交通費、宿泊料の実費分および日当を支払うことができる。交通費、宿泊料(発表日の前後いずれか1泊分)、日当は別に定める通りとする。ただし、学術大会等にかかる費用の上限を年間250,000円と定める。
- 2) 懇親会等の費用は認めない。ただし、本会の発展に資すると考えられる他団体等との交流を目的とした費用は認められる場合がある。

(慶弔)

第8条 会員本人の慶弔について、次の通り定める。

- 1) 会員の慶事に関しては、報告があった場合、祝電を送る事が出来る。
- 2) 会員の弔事に関しては、会員本人の場合10,000円とする。

附 則

この細則は、令和5年6月1日から施行する。

この細則は、令和7年10月1日より一部改正施行する。

この細則は、令和8年6月1日から一部改正施行する。